■海外からの支援チームの活動内容

イギリス 3/15〜3/17活動
救助隊員77人（プレス8人含む）、救助犬2匹
岩手県大船渡市、釜石市

ドイツ 3/14〜3/15活動
救助隊41人、救助犬3匹
宮城県南三陸町

フランス 3/16〜3/23活動
レスキュー関係者134人
（モナコ人11人含む）
宮城県名取市、青森県八戸市

スイス 3/14〜3/16活動
救助隊員27人、救助犬9匹
宮城県南三陸町

イタリア 3/16〜3/21活動
調査ミッション6人
（捜索救助、原子力安全などの専門家）
東京都

トルコ 3/20〜4/8活動
救助隊員32人
宮城県多賀城市、石巻市、七ケ浜町

イスラエル 3/29〜4/10活動
医療支援チーム53人
宮城県南三陸町

南アフリカ 3/19〜3/25活動
救助隊員45人
宮城県岩沼市、名取市、多賀城市、石巻市

ロシア 3/16〜3/18活動
第1陣75人、第2陣80人
宮城県石巻市

3月16日、宮城県南三陸町で、救助犬を連れて捜索するスイスの救助隊＝ロイター

雪の中、捜索活動に当たる中国の救助職員＝岩手県大船渡市で3月16日

インド 3/29〜4/6活動
支援隊46人
宮城県女川町

インドネシア 3/19〜3/23活動
救助隊員11人、事務員、メディカル4人
宮城県気仙沼市、塩釜市、石巻市など

シンガポール 3/13〜3/15活動
救助隊員5人、救助犬5匹
福島県相馬市

モンゴル 3/17〜3/19活動
救助隊員12人
宮城県名取市、岩沼市

台湾 3/16〜3/18活動
救助隊員28人
宮城県名取市、岩沼市

中国 3/14〜3/20活動
救助隊員15人
岩手県大船渡市

韓国 3/14〜3/23活動
救助隊員107人、救助犬2匹
仙台市

アメリカ 3/15〜3/19活動
救助隊員144人（救助犬含む）
岩手県大船渡市、釜石市

3/13〜活動中　原子力規制委員会専門家11人、エネルギー省34人　東京都、横田基地、福島県

3/13〜活動中　米軍は2万人態勢で艦船20隻、航空機160機を投入。「トモダチ作戦」と命名

メキシコ 3/15〜3/17活動
救助隊員12人、救助犬6匹
宮城県名取市

オーストラリア 3/16〜3/19活動
救助隊員75人、救助犬2匹
宮城県南三陸町

ニュージーランド 3/16〜3/18活動
救助隊員52人
宮城県南三陸町

※4/14現在　外務省資料から。旗はオリンピックで使用されるもの

世界の善意 ありがとう

大震災支援 135カ国・地域から

東日本大震災に見舞われた日本に世界中から支援の手が差し伸べられている。被災地の人々は海外から届く心強い支援に、感謝の思いをかみしめている。外務省のまとめでは、135カ国・地域が支援を表明。うち20カ国・地域から救助隊や医療隊、原子力専門家らが現地入り（大半はすでに撤収）した。39カ国・地域が毛布や食料品などの物資を届けた。外務省を通じた支援以外にも、各国赤十字社や民間団体などから義援金や物資が続々寄せられている。

宮城・南三陸町

日本語で医療活動 心満たしたカレー サンタから冷蔵庫

大津波で壊滅的な被害を受けた宮城県南三陸町では、イスラエル軍の医療チームが3月29日から約2週間、町総合体育館「ベイサイドアリーナ」で医療活動を行った。内科、外科、周産期医療も受けられる産婦人科など8科を開設して専門医を配置。延べ200人以上に対し、日本人医師の後方支援を続けた。

受診第1号となった佐藤仁町長は、津波にもまれた際に漂流物が体に当たり「せきをしても響くほど左の肋骨が痛かった」。医療チームはX線撮影を行い、その際、「『息を止めてください』と日本語で言ってくれて安心した」という。

だが「はいてください」という日本語は知らなかったらしく、苦しくなった」とエピソードを語り「異常が見つからなかったので安心できた。感謝している」と話した。

町では、地域の基幹病院である志津川病院が津波で全壊した。アリーナ医務室で指揮を執る西沢匡史医師(38)＝志津川病院内科診療部長＝が医療チームと調整し、日本人医師が診断した後にイスラエルの専門医が助言したり、検査を行う体制を整えた。医療チームからはX線や血液検査などの医療機器の提供をうけたという。【垂水友里香】

宮城・石巻市

避難所となっていた宮城県石巻市立釜小学校では震災発生から約1週間後、日本在住のパキスタン人約10人のグループがひき肉と豆のカレーとナンなどの炊きだしを行った。おにぎりやパンなどは届き始めていたが、温かいものは食べられなかった時期。鈴木達男主幹教諭は「非常にありがたかった」と話す。

鈴木教諭によると、グループは各地の避難所を回っており、ワゴン車2台に物資や鍋、ガスボンベを積んで訪れた。2日間、慣れた手つきで調理や片付けをやってくれたという。釜小に避難している会社員、佐々木みゆきさん(49)は「スパイシーで普段食べるカレーとは違ったが、気持ちがありがたかった。8歳の娘たちは、チャイを飲ませてもらったり、言葉を教えてもらって楽しんでいたようだ」と笑顔を見せた。【垂水友里香】

岩手・陸前高田市

牛丼に具だくさんのみそ汁、デザートにオレンジ……。発生直後はおにぎりやパンが続いた被災者の食事は大きく変わった。岩手県陸前高田市内で最も多い約750人が避難する市立第一中学校では、調理室にある真新しい業務用冷蔵庫が、食事作りに大きな貢献をしている。

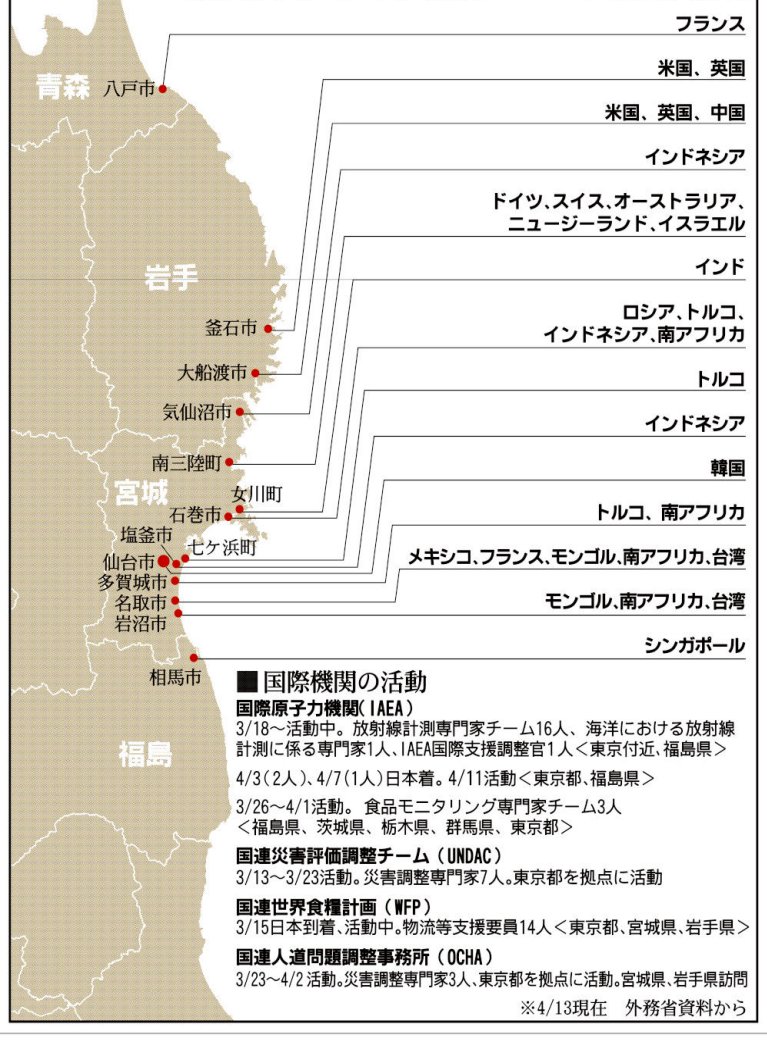
冷蔵庫は家庭用の3〜4倍の大きさで、ドイツのNGO「DEMIRA(デミーラ)」が3日に贈った。調理を担当する坂井勝さん(38)は「冷蔵庫が来るまではメニューが限られていた。栄養バランスを考えた食事を出せるようになった」と喜ぶ。

被災地とDEMIRAとの橋渡し役になったのは、世界各地で震災を取材している兵庫県在住のオランダ人ジャーナリスト、キエルト・ドゥイツさん(51)。避難所を回ってニーズを調べ、ほかの避難所や自宅避難者にも新鮮な野菜や果物が届くよう手配した。

日々変わるニーズをドゥイツさんに伝えている市職員の佐藤夕子さん(42)は「初めは『ありがとう』を言う余裕もなかった」と振り返る。今は物資の中に「DEMIRA」の文字を見つけると「ラブレターのように感じる。私たちのサンタクロースです」。【長野宏美】

3月26日、東日本大震災犠牲者のために黙とうするイスラエル医療チームのスタッフ＝宮城県南三陸町

■海外からの支援チームの活動場所



■国際機関の活動

国際原子力機関（IAEA）
3/18〜活動中。放射線計測専門家チーム16人、海洋における放射線計測に係る専門家1人、IAEA国際支援調整官1人＜東京付近、福島県＞

4/3（2人）、4/7（1人）日本着。4/11活動＜東京都、福島県＞

3/26〜4/1活動。食品モニタリング専門家チーム3人
＜福島県、茨城県、栃木県、群馬県、東京都＞

国連災害評価調整チーム（UNDAC）
3/13〜3/23活動。災害調整専門家7人。東京都を拠点に活動

国連世界食糧計画（WFP）
3/15日本到着、活動中。物流等支援要員14人＜東京都、宮城県、岩手県＞

国連人道問題調整事務所（OCHA）
3/23〜4/2活動。災害調整専門家3人、東京都を拠点に活動。宮城県、岩手県訪問

※4/13現在　外務省資料から

社説

ronsetsu@mainichi.co.jp

はげましを忘れない

世界の支援

岩手出身の詩人・童話作家、宮沢賢治は明治三陸大津波の年（1896）に生まれ、昭和三陸大津波の年（1933）に37歳の生涯を閉じた。東北の大地に住む、貧しくつつましい人たちに、限りない愛情を注いだ賢治。代表作「銀河鉄道の夜」には、主人公の心やさしい少年ジョバンニが「ぼくはそのひとのさいわいのためにいったいどうしたらいいのだろう」と、こうべをたれてつぶやく場面がある。

東日本大震災が起きてから、世界中が日本を支えてくれた。2万人態勢の「トモダチ作戦」で物資輸送、救助・捜索にあたった米軍をはじめ、缶詰や下着など避難生活に必要な物資を送ったり、医療活動などにあたった多くの国。涙を流しながら、津波犠牲者を悼む歌を合唱したケニアの少女たち。決して裕福ではない生活の中から14万円を寄付してくれた、ジャカルタの看護師・介護福祉士候補者のみなさん。遠い異国の被災者のつらさをわがものと受け止め、他者のしあわせを自分のしあわせに置きかえる無数のやさしいジョバンニに、私たちはこう伝えたい。ありがとう、あなたがたの気持ちは忘れません、と。

日本に住む外国人も、被災地に行って炊き出しなどのボランティアをしている。震災で悲しみに沈む日本人にとり、国境や国籍を超えた思いやりは大きなはげましだった。大地震と大津波と原発事故。容赦ない災害の連鎖にぼうぜんとなりながらも、私たちは今、世界との絆を感じている。日本は一人じゃない。復興と再生への遠い道のりを前にしながら、そう思う。

私たちはこれまで、支援を与える側にいた。その私たちが、支援を受ける側に立った。約5億5000万円の緊急支援予算を組んだタイのアピシット首相は「日本はこの50年間、タイの発展に重要な役割を担ってきた。タイが恩に報いるのはこの機会だ」と語った。多くの国や国際機関が、いままで助けてくれた日本を今度は私たちが助けるとも言ってくれる。

国際支援、共存共栄、地球市民。おなじ題目のように使ってきたこうした言葉が、抽象的ではなく、生き生きとした実感を伴って、私たちの胸に響く。外国から寄せられる善意が、困難な環境にいる人たちにとって、どれほど心温まるものかを、私たちは今さらながらに知った。

大きな余震が続き、震災被災者たちの苦境は、いつ終わるともしれない。原発事故が収束するかどうかもなお、予測がつかない。再び活力あふれる日本社会が戻ってくるまでには、もう少し時間がかかるだろう。だが私たちは、強じんで魅力ある国として、必ず復活する。国際社会からの温かいエールに応えるためにも。世界中からまた、たくさんの人がやってくる国にするためにも。

日本は一人じゃない。それは、同時に、日本は一人では生きられないということでもある。エネルギー資源や食料を海外に依存し、外国と交易しながら生きていくことを、運命づけられた国である。平和な日常は、日本の生存にとって不可欠である。であればこそ私たちは、他者の痛みに、よりいっそう敏感な国でありたい。自然災害や紛争など、不条理な外部からの力によって仕事や家族や大切な人を失い、貧困や疾病に苦しむ人たちが、世界にはおおぜいいるのだから。

外に目を開き、この地球に住む一人一人の人間の尊厳を守ることを何よりも大切にする――。それが、震災でいただいた世界の支援に、私たちが応える道ではないだろうか。

2011.4.15

英訳は毎日デイリーニューズ（http://mdn.mainichi.jp）に15日午後掲載

海外からの主な支援物資

※外務省受け付け分。13日時点で135カ国・地域が支援意図を表明。掲載は各最大4品目

米国	放射線防護服1万着 消防車2台 ホウ素9トン 寝袋、簡易ベッドなど
中国	テント900張り ゴム手袋326万組 仮設トイレ60個 ガソリン1万トン
香港	缶詰2万個
台湾	発電機590台 毛布・衣類4146箱 ストーブ900台 食品16.5トン
モンゴル	毛布2500枚 防寒着800着
インド	毛布2万6740枚 水10トン ビスケット10トン
カナダ	毛布2万5000枚 放射線計測機5159台
タイ	毛布3万6000枚 サバイバルキット1100個 ラーメン2万8000食
ウクライナ	毛布2000枚
インドネシア	毛布1万枚
キルギス	水2.5トン
フランス	防護服・防護マスク2万1000着 医薬品5トン 消毒用アルコール12トン 環境測定車両など4台
シンガポール	毛布4350枚 マットレス200個 非常食4400食
韓国	毛布6000枚 水580トン レトルト焼き飯3万個 ラーメン13万袋
ロシア	毛布1万7200枚 水3.6トン
コロンビア	水、黒砂糖、調味料など
ウズベキスタン	テント200張り 毛布2000枚 防寒長靴2000足
イラン	ツナ・インゲン豆5万缶
オランダ	マットレス2000台
デンマーク	毛布2万3310枚
リトアニア	毛布2000枚 寝袋300点
フィンランド	放射線計測モニター50台
ハンガリー	カップラーメン4万食 桃缶8640個 チョコバー2万7000個
スウェーデン	作業用手袋1万点
スロバキア	Tシャツ1000点 ズボン1000点 シャツ1000点
ベネズエラ	毛布5トン 缶詰1190箱 水2.8トン
マレーシア	食料品パック2000個
フィリピン	食料品パック1500個 カップめん1万2000個 バスタオル1000枚 防じんマスク5000枚
パキスタン	水500本 牛乳パック9トン ビスケット13.5トン
ネパール	毛布5000枚
イスラエル	携帯トイレ150個 手袋8290組 フリース毛布6000枚 コート1万着
メキシコ	保存食料8.4トン 衛生物品セット3.4トン 水6.8トン
英国	水100トン
バングラデシュ	毛布2000枚 ゴム長靴500足 ゴム手袋1000組
トルコ	毛布・シーツ5000枚 ツナ缶4万9000個 ウズラ豆缶2万個 水18.5トン
ウルグアイ	コンビーフ缶4600缶
グアテマラ	クラッカー、栄養ドリンクなど
タンザニア	インスタントコーヒー
カザフスタン	缶詰